

訪問リハビリテーション振興財団 新スタッフ紹介

新しい年度を迎え、会員の皆様の施設・事業所にも新人スタッフの入職や、人事異動などもあった事と思います。訪問リハビリテーション振興財団でもこの半年間で新たな仲間が加わり、既存スタッフの力と新スタッフの英知を集結し、引き続き被災地域に根差した活動を実践していきます。

合わせて、東日本大震災被災地支援にて活動している、私共財団の各訪問リハビリステーションの事業の在り方を、財団内部で検討してまいりました。当訪問リハビリテーション通信第66号・67号にてご報告させて頂いた通り、被災地では依然としてリハビリテーションに対するニーズも多々見られ、リハビリ専門職の確保は必須ではありますが、地域包括ケアシステムのモデルづくりの為に、訪問看護機能の付随も必要と考え、「気仙沼訪問看護ステーション」を5月1日に開設させていただきました。

新たなリハビリスタッフと共に看護スタッフをご紹介します。

【浜通り訪問リハビリステーション】 浅井 史織さん(作業療法士)・岩本 真幸さん(理学療法士)

【気仙沼訪問リハビリステーション】 石澤 樹さん(理学療法士)

【気仙沼訪問看護ステーション】 阿部 孝子さん(看護師)・村上 佐智子さん(看護師)・及川 真樹さん(看護師)
川原 夕紀子さん(看護師)

～南から始まる『訪問リハビリテーションの魅力紹介』～栃木県編

栃木県は山や高原など自然が豊かで観光地もあり、環境の多彩さが特徴です。その中での課題を利用者と一緒に向き合っています。嬉しいエピソードは女性利用者から、「以前は自己流だったやり方も的確なアドバイスや練習によって、楽に移動や家事ができるようになった」「家に閉じこもる生活が続いていたけれど、諦めていた事に少しやってみようかと思えるようになった」「そんな姿を家族や友人たちが喜んでくれ、また、その姿に自分も喜びを感じている」と、報告を受けた時です。

ここ数年訪問に携わるセラピストが非常に多くなってきており、若い力、ベテランの勢いを感じます。また、経験豊富な訪問セラピストが病院の中に戻ったり、病院と地域のセラピストが交流したりと、多職種でも同職種でも更に近い存在になりつつある、今後も楽しみな栃木県です。

栃木県訪問リハ・地域リーダー 理学療法士
沼尾病院 リハビリテーション部 湯浅 英貴

新型コロナウイルス(COVID-19)に関して

リハビリテーションを提供するにあたっては、濃厚接触は避けられない状況であり、三協会会員の皆様も大変な労力をお使いになっている事と思いますが、引き続き感染拡大防止のご協力をお願いいたします。

訪問リハビリテーション振興財団としましては組織化班が中心に実施している、ブロックリーダー会議等の場において、皆様の施設運営や現場ならではの困難な面を、ご意見として伺えるよう検討中です。

厚生労働省より施設基準の緩和や報酬上の変更点などが、医療保険・介護保険施設対象に発表されているサービスもございますが、診療報酬・介護報酬改正と同様に、都道府県での見解の差異が若干見受けられているようです。

対応の変更や新たな報酬の請求時等には、必ず管轄都道府県庁担当部局へお問い合わせいただき、最新の情報を確認いただければと思います。よろしくお申し上げます。